

# 4・9の成功にふまえ4・14

不当処分粉砕  
強制配転弾劾  
兼務はずし許す

# 抗議集会へ

日刊  
**動労千葉**  
1988.4.13  
2796  
No.

国鉄千葉動力車労働組合  
千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

「四・九国鉄労働者集会」は、動労千葉・総連合と国労の仲間たちを先頭に四八三名が東交会館をうずめ熱気と決意みなぎるなか、ストライキをも含むあらゆる創意工夫をこらし反撃に立つことを決定した。

「四・一」一周年にして各地で革マル鉄道労連との激突は発展しており、会社当局の横暴と非道への激しい弾劾ストライキとなつて闘われている。動労千葉と全国の闘う仲間との連帯を強め、被解雇者・清算事業団の仲間とのスクラムをがっちりうち固め、鉄道労連解体、当局徹底弾劾に起ちあがろう。

## 勝利への方針

布施書記長の基調報告をはじめ、全発言者が確信をもって訴え、参加者が万雷の拍手でそれに答えるなかで立ち上つた勝利の方針は第一に、国鉄分割・民営化の目的である国鉄労働運動攻撃は事実が立証している通り、動労千葉・総連合・国労四万が不屈に闘い続け団結を守りきつていくことで大破産している。

われわれは、「四・一」体制を大破綻に追いこんできた二波のストライキとこの一年間のたたかいに不動の確信をもって今加えられている不当処分、強制配転組織破壊攻撃を打ち破るため全組合員が怒りの反撃に起つことである。

第二に、松崎・鉄道労連こそ敵の決定的弱点である。敵の弱点は鉄道労連を徹底的に突きまくる追いこむことによつて、必ずや国鉄労働運動の新たな再生と発展はかちとれる。「自民党を支持する鉄道労連を解体せよ！」この声は闘う者の共通の激しい要求である。



全金本山 長谷副委員長

四・一を突破し、国鉄労働者に元氣よくきょうう合えたことに喜びで一杯だ。本山のたたかいは、一八年になる。怒りを燃やし、実力闘争で今日までたかかってきた。資本は同盟系組合員も首を切り、第二組合にも不満が渦まいている。いまこそ、彼らわれわれの方に獲得するチャンスだ。労戦統一は単なる「同盟化」ではない。革マル松崎をあいまいにしてはならない。

## 全国でたたかう 仲間の声

「分割・民営化」の狙いは、中曾根の「戦後政治の総決算」だ。国家財政の破綻をとりつくり戦時財政にする。そのためたかかう労働者を徹底的につぶすものだった。今、動労千葉のように階級的労働運動を進め、革マル松崎のように産業報国会化を進んでしまふのが問われている。松崎は、侵略戦争の思想をもつ極悪だ。

動労千葉は全国国鉄労働者の声を代弁している。動労千葉を守るのは労働者階級の任務だ。動労千葉と共に階級的・戦闘的にたたかひぬこう。



**4/14 千葉支社抗議集会**  
4月14日18時～  
デモ出発19時20分  
千葉市中央公園

われわれの怒りは、敵の思惑をたたきつぶし、正面から受けてたち総力を傾け、不法・不当な反動攻撃を粉砕し、職場・組織を守りうち固める。

四・一四を進撃のあいざとして、全職場からのたたかひに起ちあがろう。

## 四―五月決戦にかちさろう

敵の攻撃は四・五月に集中してきている。彼らは勝算も、正義性もないため、ただただ「力」でがむしゃらに恫喝を加えれば団結は崩れるのではないかなどと、トンデモない「甘い」願望をもっている。

われわれの怒りは、敵の思惑をたたきつぶし、正面から受けてたち総力を傾け、不法・不当な反動攻撃を粉砕し、職場・組織を守りうち固める。

四・一四を進撃のあいざとして、全職場からのたたかひに起ちあがろう。